

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1270400698		
法人名	社会福祉法人八千代美香会		
事業所名	グループホーム佐和の杜		
所在地	千葉県千葉市若葉区佐和町322-88 (電話) 043-228-7077		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年3月3日	評価確定日	4月7日

【情報提供票より】(21年2月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 12人, 非常勤 8人, 常勤換算 7.3人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費19,500円 + 事務費200円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(200,000円)	有りの場合償却の有無	有(居室の原状修復費として精算し、残金を返却)
食材料費	朝食	330 円	昼食 550 円
	夕食	500 円	おやつ 昼食代に含まれる
	月額 41,400 円 /		1日当たり 1,380 円

(4) 利用者の概要(21年2月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉南病院 丸山歯科
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「佐和の杜」の隣には併設の特養老人ホームが並び建ち、周辺には地元農家の田畑と林が広がる田園のなかの施設である。法人は、この地に施設を建てる上で地元との緊密な友好関係を築くことが不可欠と考えており、ホームが地域との交流活動を積極的に進めていることは独自性の一つとなっている。また、入居者への支援は、本人本位を目指し、介護スタッフの自由な発想のもとで多彩なケアが繰り広げられている。その自由な雰囲気、入居者に開放感を与える要因にもなっている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価(2007年11月作成)では、とくに改善課題を指摘されることはなかった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は職員一人ひとりと意見交換し、その意見を総合してユニットごとの自己評価にまとめている。自己評価はユニット会議で全員に公開・共有されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	グループホームのホーム長、ユニット管理者、利用者・家族の代表、併設特養の施設長、2地区の自治会会長、地域包括支援センターのスタッフが構成メンバーとなり、2ヶ月に1度開催している。会議ではホームの現状報告、サービスをめぐる意見交換や、行事に関する提案などが審議されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	カラー刷りの「つうしん」を家族に毎月送るほかにも入居者の日々の暮らしぶりや健康状態を家族の面会時や電話で随時伝えている。その際には、家族の意見や要望も聞いており、ユニット会議などで報告・審議して、運営やサービスの改善・向上に生かすようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域との関係づくりを最優先に進めている。地元の忘年会や新年会、農業祭などに参加するほか、ホームでも納涼会、敬老会、開園記念日を毎年3大行事と決め、交流の機会にしている。昨年からは地域のゴミ拾いも始めた。近隣農家からは野菜が差し入れられ、収穫期には入居者たちが芋掘りをさせてもらっている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「Noと言わない介護」「もっと自然に！もっと自由に！」を理念としている。ユニット会議、リーダー会議のなかで介護スタッフ全員が意見を出し合っけたりあげられたこの理念は、職員間で周知されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関やホールの見やすい壁に掲示しているほか、毎月の広報紙にも載せている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との関係づくりを最優先に進めている。地元の忘年会や新年会、農業祭などに参加するほか、ホームでも納涼会、敬老会、開園記念日を毎年の3大行事と決め、交流の機会にしている。昨年からは地域のゴミ拾いも始めた。近隣農家からは野菜が差し入れられ、収穫期には入居者たちが芋掘りをさせてもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は外部評価を実践する意義や目的を理解している。職員一人ひとりと意見交換し、その意見を総合してユニットごとの自己評価にまとめている。自己評価はユニット会議で全員に公開・共有される。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームのホーム長、ユニット管理者、利用者・家族の代表、併設特養の施設長、2地区の自治会会長、地域包括支援センターのスタッフが構成メンバーとなり、2ヶ月に1度開催している。会議ではホームの現状報告、サービスをめぐる意見交換や、行事に関する提案などが審議されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームを管轄する高齢施設課、入居者の生活保護にかかわる援護課などと相互に行き来し、情報交換や連絡・指導を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	カラー刷りの「つうしん」を家族に毎月送るほか、入居者の日々の暮らしぶりや健康状態を家族の面会時や電話で随時伝えている。入居者ごとの担当スタッフは、月ごとに入居者一人ひとりの支援の重点を決めており、その支援目標は家族にも伝えられ、円満な協力関係づくりに役立てられている。金銭管理については家族面会時に確認をしてもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話での連絡時に、家族の意見や要望を聞くようにしている。また、入居者の栄養管理など具体的な要望も家族から聞けるような関係作りが確立されている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着率は高く、異動も少ない。スタッフは仕事に入る前、日々の申し送りノート、業務日誌、医務ノートに目を通して状況を確認・共有することで、入居者に不安や混乱を与えないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の機関・団体が行なう各種研修には、職員が希望すれば勤務のシフトを勘案しながら自由に参加できる。一方、職員がシフトに応じて全員参加できるよう、10、11、12の各月に1回ずつ同じ内容で行なう法人研修に力を入れている。テーマも講師も職員の企画で決められ、昨年は感染症対策やマナー講習が行なわれた。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市の認知症高齢者グループホーム連絡会に加盟し、勉強会や交流会に参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族の不安を除くため、入居前の事前説明はもとより施設見学、体験入所にも可能なかぎり応じている。しかし、ホームの生活に慣れるまでには、入居して3ヶ月程度かかることが多いので、その間は家族にも出来るだけホームへ様子を見にきてもらう様に協力を求めている。		
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「入居者も職員もひとつの大きな家族」とする考えに徹している。「家族会」はつくられていないが、毎年5月の「母の日」、6月の「父の日」の集いが実質的には家族会になっている。一家を支えてきた「父」であり「母」である入居者に家族が感謝して寄り添う一日であり、多くの家族がプレゼントを用意して参加、家族同士の交流もしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりに担当職員があり、その職員が中心となって、生活支援の関わりから、入居者本人の希望や意向の把握に努めている。担当職員と入居者による面接も随時開催されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の介護計画は、担当職員がまずその入居者についてアセスメントをし、それを家族に説明しながら更に要望などを聞き加え、入居者・家族の意向に副った介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月に一度見直している。入居者一人ひとりの介護目標は毎月設定し、目標の達成度を月1回のユニット会議で確認している。容態や状況が変化した場合は、そのつど介護計画を見直し、現状に即したものに作り変えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者がかかりつけ医に通院など、個別の外出支援の際には、希望に応じてホームの車で送迎(有料)がされている。また法人が経営している特別養護老人ホームなど併設施設の紹介、関連サービスの利用案内の支援も行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院からユニットごとに、医師が2週に1度、看護師が毎週1度の割で回診や健康管理に来ているほか、緊急時は併設特養勤務の看護師が対応するなどの医療体制が整っており、入居者・家族の希望にそった受診支援が行なわれている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期介護に関しては、本人・家族の自主決定の尊重と協力医療機関との連携を柱にした「看取りに関する指針」がつけられており、契約時に本人・家族に説明して了承を得ている。介護度が進んだ場合などは、敷地内の併設特養ホームへ移れる体制も出来ている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を傷つけるような声かけをしないなど、プライバシーへの配慮が徹底させている。個人情報のファイルなどは事務所で厳重保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先することなく、本人の希望をできるだけ尊重し、本人のペースに合わせた支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食、夕食はご飯とみそ汁をグループホームのキッチンで作り、おかずは施設の厨房から配膳される。昼食は職員が入居者の喜びそうなメニューを考え、お好みランチづくりをしている。入居者も出来る人は調理や配膳、片付けなどを手伝っているが、一緒に食材の買出しに出ることは感染症が流行する冬場は避けている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全体的入浴時間は午後3時頃から夕食までの間に設けているが、その時間内であれば本人の体調や希望に沿ってできる限り対応し、職員の都合を優先することはないように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	自室の掃除や、庭掃除や畑の水やり、洗濯ものを干したり畳んだり、お茶くみをするなど入居者の張り合いになっている。ボランティアが事業所内で生け花、習字、グランドゴルフなどのクラブ活動を進めており、入居者の楽しみの時間となっている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	周囲には林や畑が広がり、散歩に適した環境であり、職員は入居者全員参加による「一斉散歩」を日々、欠かさないように努めている。また、バスハイクや外食に行くこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、居室などの鍵は、昼間はかけていない。職員は、入居者の日ごろの行動特性を把握しており、仮に一人で外出しても行動範囲を予測して対応ができ、近隣住民との協力も得て、連絡をしてもらえるような体制が確立されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	同じ敷地内にある特別養護老人ホームと合同で年3回、防災訓練を実施している。そのうちの1回は消防署員の協力も得て、消火器の使い方の指導なども受けている。一方で、グループホーム単独での避難訓練にはいたっていない。地域との連携は声掛けをしているところである。		併設施設と合同で全体的な訓練を行なうのも大切だが、グループホーム単独で非常災害を想定し、持ち場ごとの役割分担を明確にして独自の防災・避難訓練を行なうことによって、職員一人ひとりが危機管理意識を高め、緊急時に一層適切な対応ができると思われる。今後の取り組みを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝食と夕食は併設特養ホームの栄養士が惣菜のカロリー計算をしており、昼食についてもユニットの職員が栄養バランスに注意して食事づくりを心がけている。水分の確保も入居者の状態を見ながら調整し、食事量、水分摂取量等はチェック表に記録・管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には観葉植物が置いてあり、見た目に緑が多く、落ち着いた雰囲気である。季節ごとの飾り物も工夫されている。庭には桜の木があり、新緑、開花、落葉ごとに季節感が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が使い慣れた家具や小物が持ち込まれている。また居室には個々に洗面台が設置されていて、プライベートに配慮した造りとなっている。		